

小学校5、6年生の保健教科書に「エイズ」が出てきます。その記述のどこが問題なのか？

私が点検した4社の教科書はいずれも「エイズウイルス（HIV）は、感染した人の血液が傷口から入ることである」とあって、イラストも、指先の傷口からHIVが入り込む構図になっています。つまり、「性交や性行為によって感染する」と教えてはいけません。それでいて欄外には「『エイズ予防情報ネット』で調べられます」と記されています。

早速、小6男子が検索したところ、「HIVは主に3つの経路で感染しますが、性行為による感染は80%以上と最も多い感染経路です。HIVは主に感染者の血液や精液、膈分泌液に多く含まれていて、その性行為の相手の性器や肛門、口などの粘膜や傷口を通してうつります」とありました。この子はすぐ、保健室へ行き、養護教諭に「なぜ教科書はうそを教えるんですか」と聞きました。

その理由は、出版社が発行する教師用指導書に「HIVの感染経路には、血液感染、性的接触、母子感染

◇ 9 ◇

エイズの感染経路を教えない教科書 — 予防は家庭で教えよう —

があるが、この授業では児童の日常生活の場面で考えられる血液感染（のみ）を理解させる」と記されているからです。5、6年生になっても、エイズの主な感染経路をはっきりと教えないのは問題だと思えます。

厚生労働省エイズ動向委員会報告によると、現在、日本の感染者、患者の累計は、ついに3万人を突破し、新感染者は、毎年2、000人前後の増加を続けています。もしあなたが子どもから聞かれたら、ごまかさずに話しましょう。

HIVの感染経路を正しく教えることのできるのは、いまや、学校ではなく、家庭しかないのですから。

